JENESYS 2.0

「JENESYS2.0」
中国大学生訪日団第17陣
訪問日程　平成26年12月2日（火）～12月9日（火）

1　プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第17陣計89名が、12月2日から12月9日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：朱丹（シュ・タン）中国日本友好協会 副秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は東京都をはじめ、神奈川県、兵庫県、京都府、滋賀県、大阪府を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、日本の大学訪問や剣道、バドミントンのスポーツ交流等を通じて、同世代や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2　日程

12月2日（火）
成田空港着より入国、皇居・二重橋見学、オリエンテーション

12月3日（水）
オリンピックに関する講義、国会議事堂視察、浅草寺・仲見世見学、歓迎会

12月4日（木）
第1、2グループ：江戸東京たてもの園見学、中央大学訪問・剣道交流
第3グループ：神奈川県へ移動、藤子・F・不二雄ミュージアム視察、川崎市立古民家園見学、東海大学訪問・バドミントン交流

12月5日（金）
兵庫県へ移動、企業視察（第1、2グループ：カワサキワールド、第3グループ：アシックススポーツミュージアム）、ポートタワー見学、滋賀県へ移動

12月6日（土）
比叡山・延暦寺見学、琵琶湖博物館視察、Vリーグ観戦

12月7日（日）
京都府へ移動、平等院見学、同志社大学訪問・スポーツ交流、滋賀県へ移動、和風温泉旅館での日本文化体験

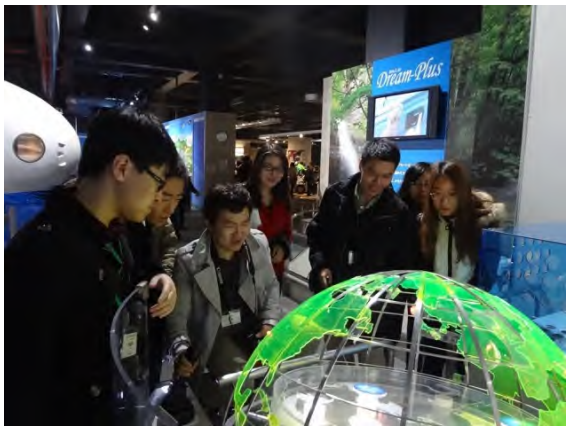
12月8日（月）
京都府へ移動、金閣寺・嵐山見学、日本文化体験（友禅染め）、大阪府へ移動、商業施設視察、歓送報告会

12月9日（火）
関西空港より帰国

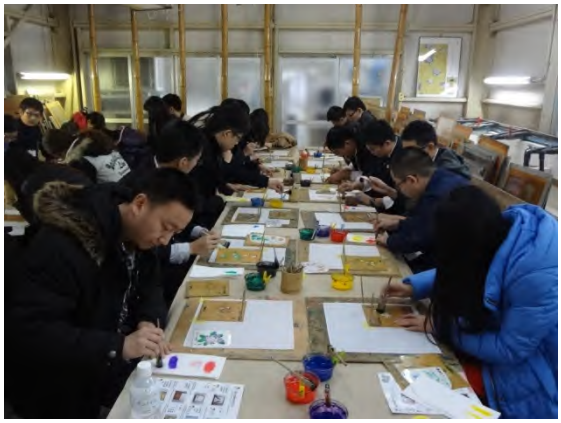
3　写真

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>12 月 2 日　皇居・二重橋見学（東京都）</td><td>12 月 3 日 中森康弘（公財）日本オリンピック委員会広報・企画部部長による講義（東京都）</td></tr>
<tr><td>12 月 2 日　参观皇居・二重桥（东京都）</td><td>12 月 3 日 公益财团法人日本奥林匹克委员会宣传・企划部　中森康弘部长的讲座（东京都）</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>12 月 3 日　国会議事堂視察（東京都）</td><td>12 月 3 日　浅草・仲見世見学（東京都）</td></tr>
<tr><td>12 月 3 日　考察国会议事堂（东京都）</td><td>12 月 3 日　参观浅草・仲见世（东京都）</td></tr>
<tr><td>
</td><td> </td></tr>
<tr><td>12 月 3 日　歓迎会　川田勉外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課地域調整官の挨拶（東京都）</td><td>12 月 4 日　江戸東京たてもの園見学(東京都)</td></tr>
<tr><td>12 月 3 日 外务省亚洲大洋洲局中国・蒙古第一课 川田勉地域调整官在欢迎会上致辞（东京都）</td><td>12 月 4 日　参观江户东京建筑园（东京都）</td></tr>
</table>

12 月 4 日　藤子・F・不二雄ミュージアム視察（神奈川県）	**12 月 4 日　川崎市立古民家園見学（神奈川県）**
12 月 4 日　考察藤子・F・不二雄博物馆（神奈川县）	12 月 4 日 参观川崎市立古民家园（神奈川县）
12 月 4 日　中央大学訪問（東京都）	**12 月 4 日　中央大学剣道交流（東京都）**
12 月 4 日　访问中央大学（东京都）	12 月 4 日　中央大学剣道交流（东京都）
12 月 4 日　東海大学訪問（神奈川県）	**12 月 4 日　東海大学バドミントン交流（神奈川県）**
12 月 4 日　访问东海大学（神奈川县）	12 月 4 日　东海大学羽毛球交流（神奈川县）

	
12 月 5 日　カワサキワールド視察（兵庫県）	12 月 5 日 アシックススポーツミュージアム視察（兵庫県）
12 月 5 日　考察川崎世界（兵库县）	12 月 5 日　考察爱世克斯运动博物馆（兵库县）
12 月 5 日 ポートタワー見学（兵庫県）	12 月 6 日　比叡山延暦寺見学（滋賀県）
12 月 5 日 参观神户港塔（兵库县）	12 月 6 日　参观比睿山延暦寺（滋贺县）
12 月 6 日　琵琶湖博物館視察（滋賀県）	12 月 6 日　Ｖリーグ観戦（滋賀県）
12 月 6 日　考察琵琶湖博物馆（滋贺县）	12 月 6 日　观看排球联赛（滋贺县）

12 月 7 日 平等院見学（京都府）	**12 月 7 日 同志社大学訪問・剣道交流（京都府）**
12 月 7 日　参观平等院（京都府）	12 月 7 日 访问同志社大学，剑道交流（京都府）
12 月 7 日 同志社大学訪問・バドミントン交流（京都府）	**12 月 7 日　和風温泉旅館体験（滋賀県）**
12 月 7 日 访问同志社大学，羽毛球交流（京都府）	12 月 7 日 体验日式温泉旅馆（滋贺县）
12 月 8 日　金閣寺見学（京都府）	**12 月 8 日　嵐山見学（京都府）**
12 月 8 日　参观金阁寺（京都府）	12 月 8 日　参观岚山（京都府）

	
12 月 8 日　日本文化体験（京都府）	12 月 8 日 歓送報告会 訪日成果報告（大阪府）
12 月 8 日　体验日本文化（京都府）	12 月 8 日 欢送报告会，汇报访日成果（大阪府）

4　参加者の感想（抜粋）

〇中央大学と同志社大学の剣道部員達のことが、非常に深く印象に残った。彼らの多くが小さな頃から剣道を練習しており、十数年の経験がある。私達は練習時間も短いうえ、はなから彼らの相手にならないが、どんな状況であろうとも、彼らは私達に非常に忍耐強く基礎と要領を教えてくれた。私達に少しでも進歩が見られると励ましてくれ、嫌な顔ひとつしなかった。練習試合が終わった時、継続して練習すれば絶対に強くなれるよと言ってくれて皆が癒された。心の底から感激し、同時に日本の学生の活発さ、よく笑うところ、友好的な性格が好きになった。

私は周囲の同級生に日本という国は清潔で、発展しており、人々は温かく、住みやすい場所で、人と人の間には礼儀や遠慮があり、まるで自分の国に戻ったように感じさせてくれる場所であると伝えたい。可能であれば日本に留学し、日本で働き、現地の生活に溶け込みたいと思う。わずかな時間の交流は大和民族の文化を垣間見たに過ぎないが、あの初めて会ったときの挨拶、お礼を言ったときの誠意、別れの握手からも、彼らの礼儀文化を感じることができた。

〇日本の清潔な街並み、整然とした都市には深い印象が残った。その国が発展しているか否かは、往々にしてこういった細かい部分に現れると思う。日本のゴミ分別は世界的に有名だが、公共秩序も最高レベルだ。道路や公共の場所には、生活に便利な施設がすべて揃っている。また、そのデザインも人に優しい。こういった環境は国民の素質と経済全体のレベルが一定の程度に達してこそ、実現可能なのだろう。然るに、中国国内のさまざまな状況は、日本とはまだまだ一定の開きがあると思う。

また二校の大学訪問を通し、中国の大学とは異なる雰囲気を感じた。まず剣道交流を通じて、日本では大学のサークル活動や課外活動が豊富なことを知った。大学のキャンパスにはアカデミックな空気が濃厚に漂い、自分達も学ぶべきだと思った。

帰国後はまず、歴史文化が要因でもたらされている日本への誤解を取り除きたいと思う。中国人に日本の一般人は非常に友好的であること、日本人も日中友好を願っている

ことを知らせたい。自分の見たこと、聞いたことを通じて、より多くの人々の心の扉を開き、一衣帯水の友人のことを受け入れてもらいたいと思う。その次に、大学に日本の理念を紹介し、国民の一般的教養の向上を促し、大国としてのイメージアップを図りたいと思う。最後にやはり、自分自身が見たことや聞いたことを、自分の家族や友人に分かち合いたい。彼らに日本の歴史文化の厚みや風景の美しさ、和食のおいしさや和風の風情を是非、感じてもらいたい。

〇この活動に参加する前は、日本人は中国人のことを敵視しているだろう、国民の消費生活レベルは高いだろう、と思っていた。しかし日本に行ってから、どんな人に対しても笑顔で出迎え、優雅で礼儀正しい日本人の友好的な面を見た。日本での一週間の滞在を通し、国家の工業化が人々に与える影響の大きさを感じた。ハイテク商品が非常に廉価で、生活のコストもほとんどが受け入られる程度のものである。

剣道交流に参加した学生の一人として、中央大学や同志社大学への訪問を通じて、中国と日本の剣道レベルの大きな開きを目の当たりにした。確かに中国の剣道普及の出だしは遅く、底は浅いがこれから大きな発展の余地があると思う。戻ったら日本で学んだ技術と訓練の仕方を他の部員と共有し、皆一緒にレベルアップしたいと思う。同時に日本の友人と連絡を取り合い、友好を深めたい。

今回は先輩達と一緒に来たが、日本の先輩からも多くのことを学んだ。祖国に戻ったら今まで以上に努力して剣道を練習し、もし今後また機会があれば、自分の後輩達を連れて再度日本を訪れ、日本の友人に成長した中国の剣道を見せたいと思う。

〇今回の訪問で、最も印象深かったのがカワサキワールドを参観し、見聞きしたことだ。日本の先端技術や悠久の工業の歴史を知ることができた。いわゆる「見賢思斉」（優れた人を見ると自分も見習おうと思うこと）だ。私は、発展中の祖国が更に強大になることを切に願っている。現在、中国の工業は立ち遅れ、国情も複雑かもしれないが、学ぶ心を持ちさえすれば、必ず進歩があると思う。日本はこの面において、先輩であり、先生でもある。私たちは謙虚に教えを乞うと同時に、ともに発展することを促進したい。

日本を訪問する前、周囲のクラスメイト達が日本や日本人に対し、大きな誤解をしていることに気が付いた。歴史、政治的原因によって彼らは日本に敵意さえ抱いている。もちろん、歴史と政治の要因は客観的に存在するし、私たちは必ずそれを尊重し、直視しなければならないが、中日間の友好的外交関係構築の妨げになってはならない。世界の発展における基本的観点は協力であって、対峙ではない。我々両国はどちらも良き隣人を必要としており、こうすることで長期的な発展を追及することができる。

祖国に帰ったら、日本人の文明的で友好なところ、日本人が良好な日中関係を望んでいることを周囲の人々に伝え、更に多くの中国の青年に真の日本を知らせたいと同時に、日本政府および民間組織が積極的に自己の役割を発揮し、中日間の友情に役立つことを沢山してほしいと願っている。

中日の友情の木が永遠に生き続けますように！

〇まず初めに今回訪問できたことをとても光栄に感じるとともに、日本側の皆さんの行

き届いた受け入れに、心から感謝申し上げたい。今回の訪問でいろいろ深く印象に残ったことがある。日本側は私達に全面的な日本を見せてくれ、アレンジは細かいところまで行き届いており、非常に信頼できた。この点は私達も学ぶ価値があると思う。

日本の環境は非常に美しく、冬であっても色彩は色とりどりで、日本が環境保護に対し払った努力と成果は誰もが認めるところであり、国民の環境保護に対する意識は非常に強い。こういう点も帰国したら伝えていきたいと思う。

また日本人の仕事に向き合う態度も印象深く、ガイドに感謝したいと思う。日本側の事務局、接点があったホテルの従業員、またはコンビニの店員に至るまで、その仕事に対する心構えは私に深い印象を残した。どんな仕事も貴賤はなく、どんな職務上の地位に置かれていても、元気一杯にその仕事をやり遂げればいいのだと、この点においても私達は学ぶべきだと思う。

その他にも印象に残ったことは本当にたくさんある。今回の招待に改めて感謝し、機会があれば必ずまた日本に来たい。ありがとうございました！

〇日本の民俗文化の保存状態は素晴らしい。いろいろな観光地で、きちんと保存された歴史や文化を見ることができる。またこういった文化が人々の日常生活や行動の中に溶け込んでいる。日本文化には静かな美しさがあり、優雅だが気骨もあり、その特色はさまざまな点に現れている。日本文化は、伝統や古いものと現代的な流行要素を完璧に融合させながらも、その基本を失っていない。こういった点は学ぶべきだと思う。

最も周囲に知らせたいことは、日本は中国人にとって多くの面で親しみを感じることができる国だ。文化であれ歴史であれ、どちらも深い根源がある。もし日本ひいては中国文化に対する理解を深めたいなら日本に行って学び、体感することをお勧めしたい。

〇今回の訪問を通して印象が深かったことは、日本がスポーツをとても重視していることだ。事前に日本語を学んでいたとき、例えば日本の運動会は全員参加だとか、全員試合に参加するなど、ある程度のことは聞いていた。ただ実際に自分が体験してみると、日本の部活動は施設と連携していて、学生のスポーツ活動を全面的に支持している。中国のスポーツはどちらかというとプロ選手を育成しようという方向にやや偏っていて、個人のスポーツはそれほど重視されておらず、むしろ軽視されている。中国も今後は幼少期からの育成を重視し、実行してほしいと思う。

帰国後は日本文化の自発性を強調したい。もちろん周りの人達が自身の目で、実際の日本を見てもらうことが一番よいが、それぞれの民族の強さは政府がいかに宣伝を展開し、厳格に規制するかということではなく、国民自らが自覚することにあると思う。例えば自ら信号を守り、衛生環境に気を付け、自ら意識して生活し、いつも人に迷惑をかけないよう気を付けること、これらは、最も学ばなければならないことだと思う。政府に頼るのでも、他の人の監督に頼るのでもなく、自分で自分を律してこそ文化人、文明人と言えるのだ。

〇JENESYS2.0 の活動に参加し、最も印象に残ったのは中央大学と同志社大学の学生や先生方との剣道交流だ。中央大学では主に剣道の基本練習を行い、多くの基本動作の方

法を学んだ。また同志社大学の交流では友好と地稽古に重きが置かれていた。中でも同志社の先生や先輩方の打ち合いは自分自身に足りないところを感じたと同時に、一段と励みになった。中央大学と同志社大学での日本の大学生との地稽古では、彼らの身のこなしから多くのことを学び、友情を深めることができた。学生と言う立場で、中日両国の交流を深め、今回の交流は一生忘れ難い経験となった。また剣道の愛好者、初心者として、剣道発祥の地で日本の友人と共に学ぶことができたことほど、感動に値することはない。またぜひ日本に学びに来たいと強く思うようになった。

剣道の愛好者として、今後は中国国内で剣道文化の発展に貢献したいと思うし、より多くの人に剣道を知ってもらいたい。学生という立場で中日文化交流を促進したいし、平和的な発展のために自分の力を尽くしたいと思う。

〇今回の活動に参加する前の日本に対するイメージは、清潔で、秩序があり、日本人は謙虚で礼儀正しく、時間を厳格に守るということだった。参加してみて、日本と日本人に新たな認識を得た。このような規範のある国であるのは、その道理がある。日本人の自己管理の厳格さは尊敬に値する。人のために心を尽くす職業観も学ぶべきだと思う。

東海大学と同志社大学の二校を訪問し、日本の学生とバドミントンの相互練習、試合を通じて交流した。お互いに技を学んだだけでなく、重要なことは友情が深められたことだ。言葉の壁はあっても、お互いの心ある交流には影響せず、同じスポーツを行うもの同志しっかりとした絆が結ばれ、バドミントンというスポーツを通じ深い共鳴を得た。相手の打ち方から、どんな人物なのか感じることができた。日本でバドミントンを行う学生の平均レベルは比較的高く、基礎レベルも手堅かった。学生達はバドミントンがとても好きで、学業を行いながら十何年も練習を続けている。これはかなり容易なことではない。中国ももっと、教育とスポーツを融合させ、学生の全面的な発展を促すべきだと思う。

〇8 日間という短い日本訪問ではあったが、たくさんの素晴らしい思い出が残った。最も印象深いのは日本人の人に対する態度だ。どんな場合、どんな人に対しても彼らは皆、謙虚で穏やかで、親切で、礼儀正しい。ホテルでもスタッフや従業員は辛抱強く我々を案内してくれ、言葉が通じなくても力を尽くして解決してくれようとする。お店でぶらぶら見ているだけでも、温かく応対してくれ、紹介し助けてくれようとする。ひとつの場所を離れる度に、バスが見えなくなるまでずっと手を振り続けてくれる。こういったさまざまなことに、親しみと温かさを感じた。

日本の大学生との交流では、彼らは活発、親切で、わずか数時間の交流であっても最大限のもてなしの気持ちを表現してくれた。帰国したら周囲に、日本人は人のために、客人に対するとき、友人と交流するときに「和」を重んじ、温かく礼儀正しく物事にあたることを伝えたい。礼儀は丁寧に尽くすべきだと言われるが、彼らの礼儀によってその国は輝きを増し、人々に温かさと気持ちよさを感じさせてくれる。

〇日本に来る前は日本がどういいとか、日本の文化や環境について、聞きかじり程度の知識だったが、今回の活動に参加し、日本の整った環境と、サービスの態度、何かする

際のきっちりしたところなど認識が変わった。

8日間という短い日本訪問の中で、私達はバドミントンの訪日団だったので、東海大学と同志社大学でバドミントン交流を行った。交流中、日中の大学生は大いに楽しんだ。中国の大学生は卓越した技術を披露し、また自分達も日本の大学生のとても親切で、客人をもてなし、かつ自分を厳しく律する行為に影響を受けた。彼らの物事に向き合う態度、慎み深い生活、環境保護など私達が学ぶべきところは多い。同時に自分達も中国の大学生の良い印象を表現することができたと思うし、日本の大学生や国民に、中国に対する理解をより深めてもらえたと思う。